

トピック ― 最近の冬レタスの動向 ―

木枯らしが吹く季節になると、鍋物用のはくさいやだいこん等冬野菜の需要が増加する。一方、最近では、堅調なサラダ需要に加え、外食、ファーストフードの固定需要もあり、冬場のレタス需要も底堅い。

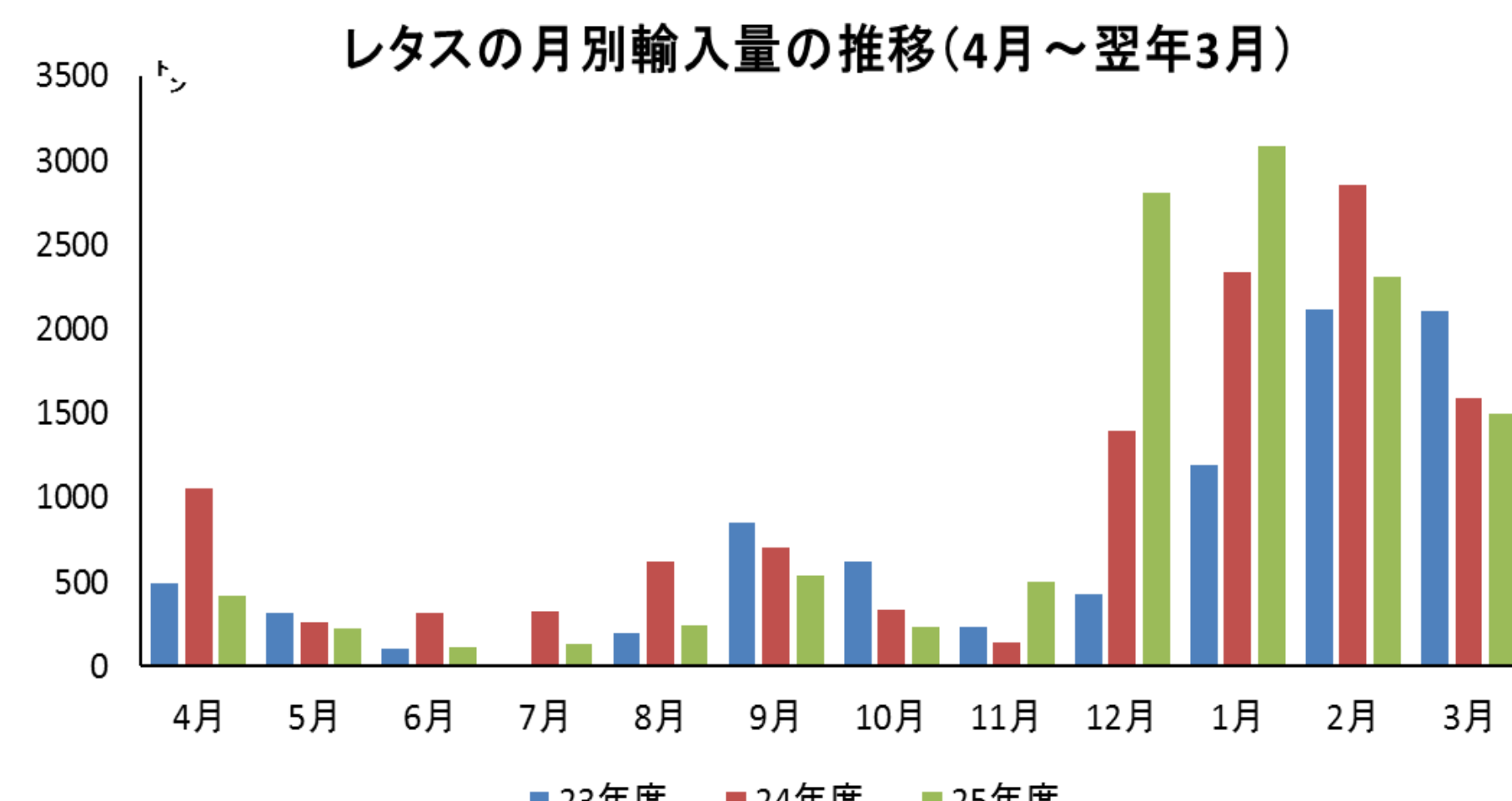
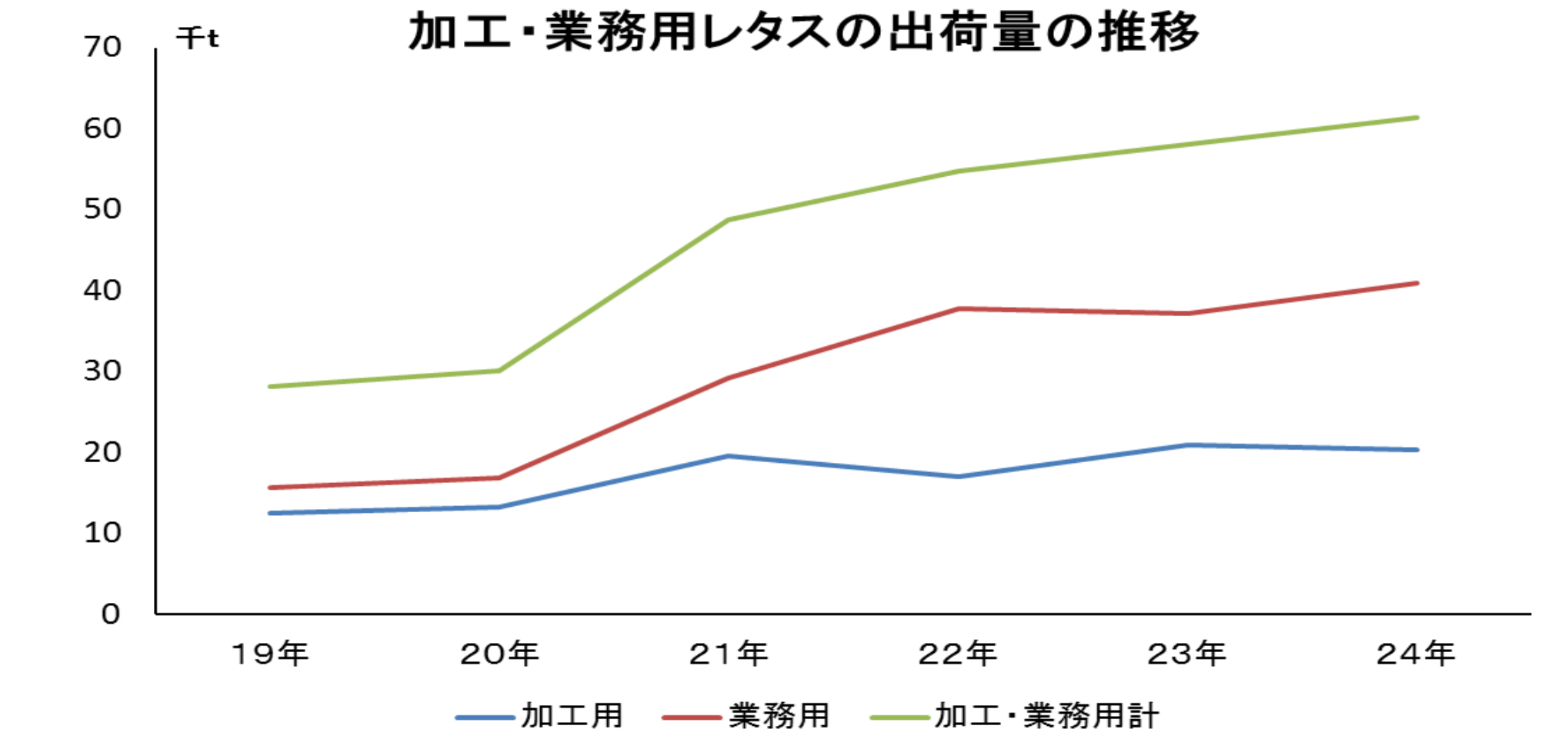
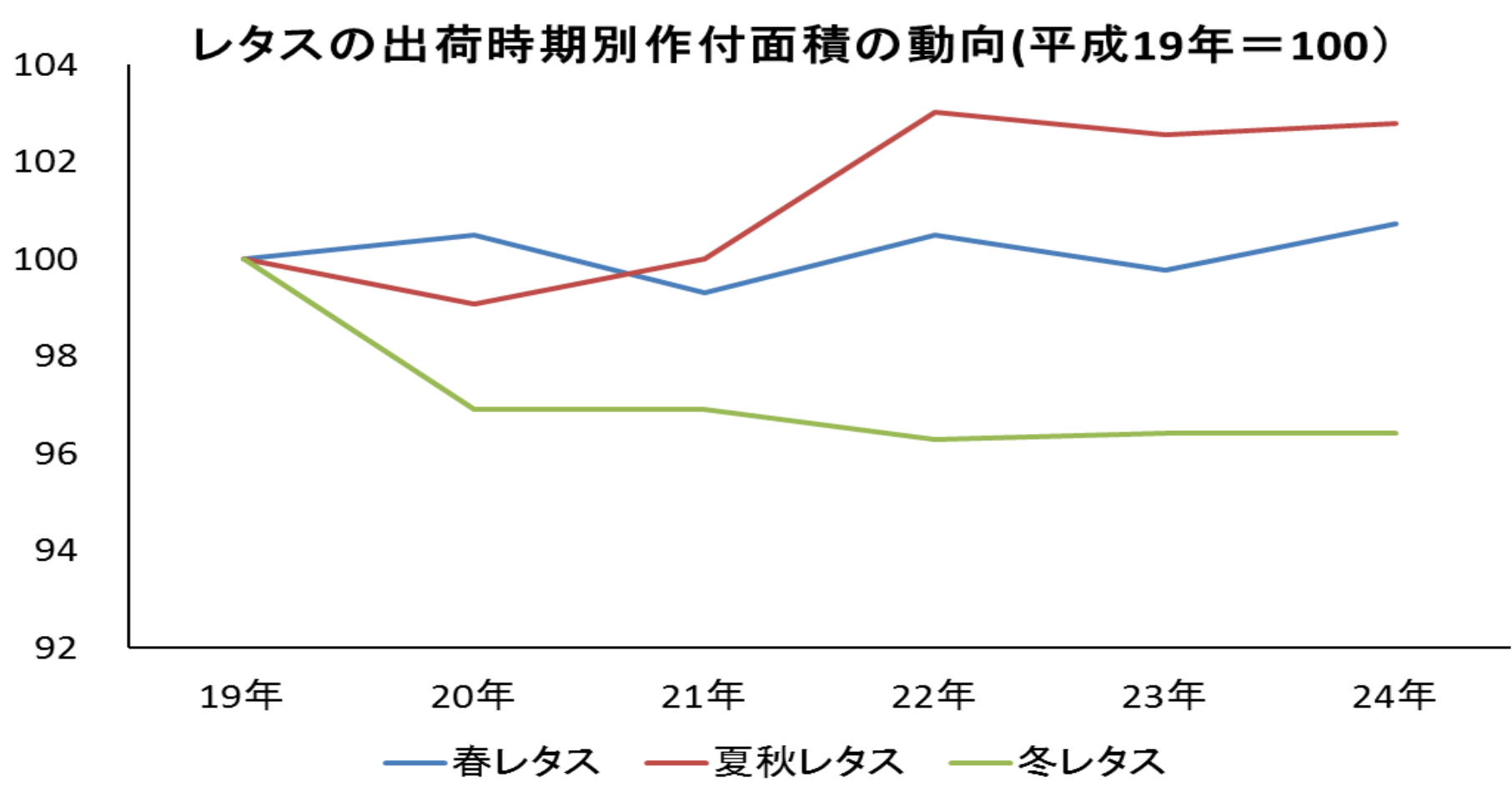
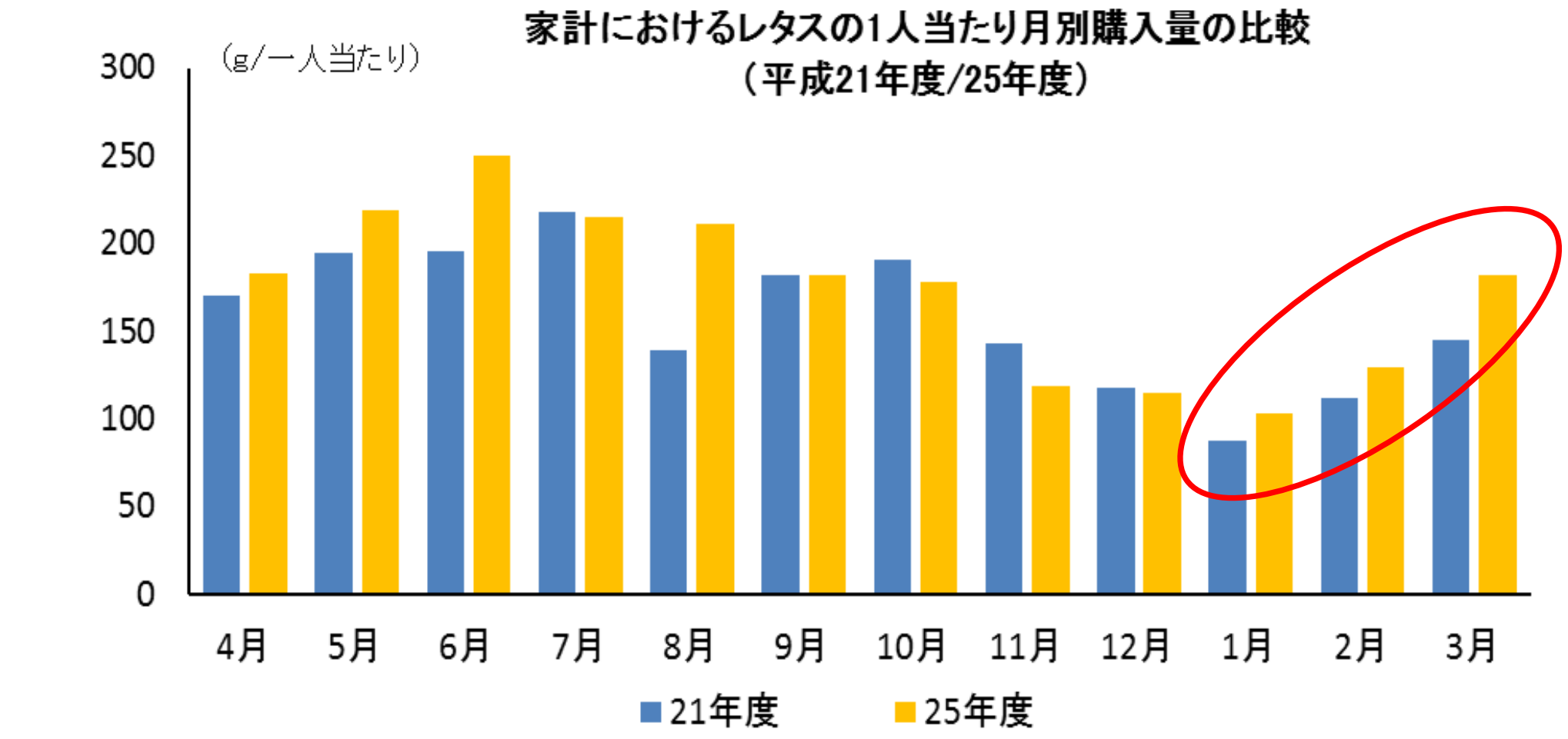
レタスの月別家計購入量は、秋冬期は春夏期に比べて少ないが、1～3月は増加もみられる。また、加工・業務用レタスの出荷量は、近年、業務用が増加しており、安定的な周年供給の重要性が高まっている。しかし、最近のレタスの出荷時期別作付面積は、夏秋レタスは増加する一方、冬レタスは減少がみられる。

レタスは、生育が気象変動の影響を受けやすく、貯蔵性も低いこと等から、供給・価格の変動が大きい野菜である。このため、寒波襲来等により生育遅延等が生じると、近年の出荷減少もあり、冬期にも高騰が生じることがある。例えば、平成24年12月から25年2月のレタスの価格（東京中央卸売市場）は、厳冬に伴う生育不良の影響から、平年比で49%上昇した（331円/kg）。

このため、特に業務用レタスを扱う業者の輸入が急増した。翌期には、冬レタスの不作への備えから、輸入手当が11月から前倒しされる形で増加した。

レタスは貯蔵性が低くスポット的な輸入が難しいため、輸入産地の当年産作期の終了時には、翌年産の輸入手当を行う業者もあるとみられる。植物検疫統計（農林水産省）によると、本年10月第1～第3週のレタスの輸入は、前年比86%であり、現時点では増加の兆しは見られないが、今後の動向の注視が必要である。さらに、冬レタスの輸入常态化の回避のためにも国産冬レタスの供給力の強化が重要な課題である。

前回予告していた「家計における冷凍野菜の消費動向」については、後日掲載する予定である。



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、齋藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はページ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alio.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。